

◎共生社会の実現に向けて

1. 心のバリアフリー

「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです(「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画(2017年2月ユニバーサルデザイン 2020 関係閣僚会議決定)」より)。

そのためには、一人一人が具体的な行動を起こし継続することが必要です。各人がこの「心のバリアフリー」を体現するためのポイントは、「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」では、以下の3点とされています。

- (1)障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること。
- (2)障害のある人(及びその家族)への差別(不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供)を行わないよう徹底すること。
- (3)自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培うこと。

2. 障害の社会モデル

「障害の社会モデル」とは、「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である、とする考え方です(「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」より)。

「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」では、「障害の社会モデル」をすべての人が理解し、それを自らの意識に反映させ、具体的な行動を変えていくことで、社会全体の人々の心の在り方を変えていくことが重要であり、また、この「障害の社会モデル」の考え方を反映させ、誰もが安全で快適に移動できるユニバーサルデザインの街づくりを強力に推進していく必要がある、とされています。

3. バリアフリー教室を実施する趣旨、目的

高齢者や障害者などの自立と社会参加の要請へ適切に対応し、高齢者や障害者などが公共交通機関を円滑に利用できるようにするため、社会全体での施設整備(ハード面の施策)に加え、実際に高齢者や障害者への手助けをしやすい環境づくり(ソフト面の施策)を進めることも必要です。

このソフト面の施策のひとつとして「バリアフリー教室」の実施が挙げられます。これにご参加いただくことにより、高齢者や障害者などの実生活での困難にまつわる体験談を傾聴するとともに、これらの方々に対する介助体験を通して、バリアフリーについて理解を深め、福祉・ボランティアに関する意識を醸成し、国民一人ひとりが、高齢者や障害者などに対して自然に快く手助けできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指します。

4. 中部運輸局管内バリアフリー教室の実施状況

開催日程： 令和5年9月14日(木)
開催場所： 静岡県三島市立東小学校・体育館等
主 催： 中部運輸局静岡運輸支局
三島市
社会福祉法人 三島市社会福祉協議会
協 力： 株式会社 東海バス沼津営業所
参 加 者： 小学4年生 60名

視覚障がい者の方から講話をいただいた後、各グループに分かれて、体育館に設置したコースをまわる車いす体験、低床バスを使った、車椅子の人が乗降するためのスロープの使用や乗車後の車椅子の固定などの体験、バリアフリークイズなどに取り組みました。初めて経験した事ばかりで、驚いたり対応に困ったりしている様子が見られましたが、前向きに学び考えようとする積極的な姿勢を見ることができました。

視覚障がいの方の講話



車いす体験



低床バスの乗降体験



バリアフリークイズ



開催日程：令和5年10月5日(木)

開催場所：福井県坂井市立兵庫小学校

主催：中部運輸局・福井運輸支局

協力：社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

京福バス 株式会社

公益社団法人 福井県バス協会

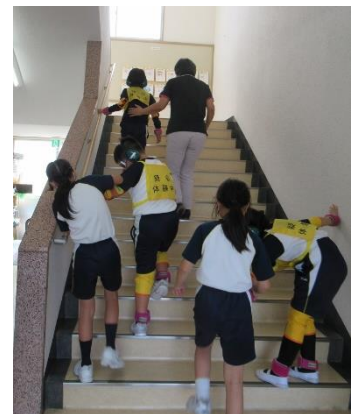
参加者：小学4年生 11名

下肢障がいの方から講話をいただいた後、各グループに分かれて、シニア体験、体育館に設置したコースを車椅子介助でまわる車いす体験、低床バスを使用した車椅子乗降体験に取り組みました。

下肢障がいの方の講話



シニア体験



- ・見えにくくなるゴーグル
- ・手首と足首におもり
- ・肘と膝に「曲がりにくくなるサポーター」を付けて階段の上ってみたり、小銭をお財布から出してみたりしました。

車いす体験



低床バスの乗降体験



開催日程：令和5年10月6日(金)

開催場所：福井県坂井市加戸小学校

主催：中部運輸局(交通政策部バリアフリー推進課)

協力：社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

京福バス 株式会社

公益社団法人 福井県バス協会

参加者：小学4年生 28名

下肢障がいの方から講話をいただいた後、各グループに分かれて、視覚障害体験、車椅子体験、ノンステップバス乗降体験に取り組みました。

下肢障がいの方の講話



視覚障害体験(目をつむって体験)



ノンステップバスの乗降体験



車椅子体験



競技用車椅子も
持ってきていただきました。



開催日程：令和5年10月31日(火)

開催場所：名古屋市立大須小学校

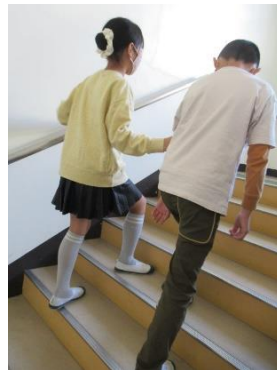
主催：中部運輸局

協力：社会福祉法人 名古屋市中区社会福祉協議会
大須学区地域福祉推進協議会

参加者：小学5年生 22名

まず、各グループに分かれて、体育館に設置した視覚障害体験コースを介助者・体験者を交代しながら歩いたあと、階段に移動し、視覚障がいの方に実際に降りたり登ったりする様子を実演してもらい、それぞれが交代しながら目をつむって階段の上り下りを体験しました。その後、視覚障がいの方に普段の生活の様子などをお話していただき、じゃがいもの皮むきの様子なども見せていただきました。盲導犬についての説明もしてもらい、子ども達からは「当事者の方々の苦労や工夫がよく分かった」「盲導犬の役割がよくわかった。」「お仕事中は触ったり餌をあげたりしてはいけないことがわかった」「点字ブロックが2種類あるのは初めて知った」「目を閉じて歩くのはすごく怖かった、当事者の方はすごい。体験できたので、どのように声をかければ良いかが分かった」といった感想がありました。

視覚障害体験



触っただけでは区別しにくいものを、箱の中から取ってもらいました。

視覚障がいの方の講話



ジャガイモの皮むき実演

盲導犬のお仕事中の注意点

- いってください。
- ◆盲導犬に声をかけたり、じっと前から見たり、口笛をならしたりしない。
 - ◆盲導犬に食べ物を見せたり、あげたりしない。
 - ◆盲導犬をなでたり、ハーネスを触ったりしない。
 - ◆盲導犬に自分のペットと挨拶させようと近づけたりしない。



ハーネスを外している時はオフタイム

開催日程：令和5年11月21日(火)

開催場所：名古屋城

主 催：中部運輸局(交通政策部バリアフリー推進課)

協 力：名古屋市 観光文化交流局 名古屋城総合事務所

参加者：7名(一般)

名古屋城で開催されていた秋まつりの期間に合わせ、ブースを設置して点字ブロックを使った視覚障害体験を実施しました。白杖を使い、地面に設置した簡易点字ブロックの上を歩くだけの体験ですが、参加者からは「以外と難しい。これで歩けるのはすごい」「足の裏だけでは点字ブロックがあるかないかあまりはつきり分からず不安」「白杖も使いこなすのは難しいと思った」との感想がありました。

体験の様子



開催日程：令和6年1月23日(火)

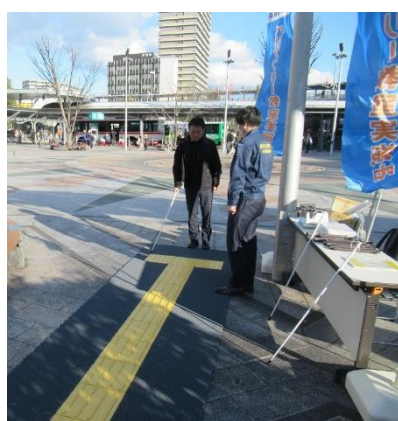
開催場所：JR 岐阜駅

主催：中部運輸局(交通政策部バリアフリー推進課)

協力：岐阜市

参加者：6名(一般)

岐阜駅北口駅前広場(信長ゆめ広場)にて、ブースを設置して点字ブロックを使った視覚障害体験を実施しました。名古屋城で実施した体験と同様、白杖を使い、地面に設置した簡易点字ブロックの上を歩く体験ですが、参加者からは「足裏だけでは誘導ブロック(長型)と警告ブロック(点字)の違いが分かりにくい」「実際に体験してみて、駅などで白杖を使っている方を見たことがあるがスムーズに歩いているすごい」との感想がありました。



開催日程：令和6年2月19日(月)【第1部】及び 28日(水)【第2部】

開催場所：名古屋国際会議場【第1部】及びサポートイン南知多【第2部】

主催：中部運輸局(交通政策部バリアフリー推進課)

後援：愛知県・名古屋市

協力：愛知県

公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会
一般社団法人ウェルネスインバウンド協会

参加者：アジア・アジアパラ競技大会関係者(行政職員・公共交通事業者・宿泊事業者等)

アジアパラ競技大会に携わる方(ホテル・旅館、交通事業者、旅行業者、組織委員会・愛知県・名古屋市職員等)が受け入れに当たって望まれる対応を勉強する場を提供することで、受け入れ準備の促進、機運醸成に寄与すると共に、心のバリアフリーの啓発、認知度向上により大会のレガシーとして心のバリアフリーの考え方が浸透することを目的として、テーマ別に2日間開催しました。

【第1部】 パラアスリート・専門家から学ぶおもてなしのポイントと
リフト付大型観光バス・UDタクシーの実演見学

令和6年2月19日(月) 13:30~17:10

会場：名古屋国際会議場133会議室

- 1 アジア競技大会及びアジアパラ競技大会概要説明
愛知県スポーツ局アジア・アジアパラ競技大会推進課
- 2 【講演】パラアスリートの経験から学ぶ
～心のバリアフリーへの気づき～
トヨタ自動車株式会社 パラアスリート 石田 駆 氏
- 3 【講演】障がいがある方への接客
～『パーソナルバリアフリー基準』でのおもてなし～
特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター シニアマネージャー 中村 千枝 氏
- 4 リフト付大型観光バス・UDタクシー実演見学



トヨタ自動車株式会社
パラアスリート
石田 駆 氏



特定非営利活動法人
伊勢志摩バリアフリーツアーセンター
シニアマネージャー
中村 千枝 氏



講義の様子【第1部】



車両見学【第1部】

【第2部】 表彰旅館と考える「宿でのおもてなし」 宿泊事業者対象

令和6年2月28日(水) 13:30~16:50

会場：サポートイン南知多

- 1 大会にかかる宿泊概要説明
公益財団法人 愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会
- 2 福祉旅館～サポートイン南知多のご紹介～
サポートイン南知多 スタッフ 佐々木 江里 氏
- 3 宿泊施設でのグローバルコミュニケーション
一般社団法人ウェルネスインバウンド協会 代表理事 井辻 敦雄 氏
- 4 宿泊施設改修に関する補助制度説明
中部運輸局観光部(観光企画課)
- 5 施設見学・意見交換会



～サポートイン南知多ご紹介～
日本初の福祉旅館として、2018年に南知多にオープンした、「バリアフリーなおもてなし」を行っている旅館です。



講義の様子【第2部】



お部屋見学【第2部】



お風呂見学【第2部】